

(様式 1-3)

二本松市生活拠点形成事業計画 生活拠点形成事業等個票

平成 29 年 1 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	12	事業名	二本松安達線拡幅事業	事業番号	F-1-1
交付団体	福島県		事業実施主体 (直接/間接)	福島県(直接)	
総交付対象事業費	43,000 (千円)		全体事業費	43,000 (千円)	
事業概要					
<p>東京電力福島第一原子力発電所の事故による避難者の居住の安定した生活環境を確保し、長期にわたる避難生活を安心して過ごせるよう、二本松市油井字石倉地区に 200 戸の復興公営住宅を計画しているところであるが、住宅への出入りに伴い、隣接する二本松安達線の交通量増加が予想される。</p> <p>その際、近隣に所在する油井小学校や安達中学校へ通学する児童・生徒をはじめとする復興公営住宅入居者及び周辺住民の安全の確保のため、隣接する二本松安達線の拡幅整備を行うものである。</p> <p>※H27.4 現在 当該路線を利用して通学する児童数 約 20 名</p>					
【整備概要】					
整備内容：二本松安達線を拡幅し歩道を設置 L=100.0m W=6.0(10.0)m					
※当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください 『福島県復興計画(第2次)』掲示					
取組名：生活再建支援プロジェクト【復興公営住宅整備】					
取組内容：避難町村の意向を十分に確認しながら、県営住宅を含む様々な整備方法について検討中					
居住制限者の避難の状況との関係					
<p>当該箇所は、県営の復興公営住宅 200 戸が建設され、二本松安達線からのアクセスを計画しているが、近隣に保育園や小、中学校が所在するため、通学路に指定されており、児童等の安全を確保することが重要となってくる。また、復興住宅近隣には、大規模なショッピングセンター等が立地しており、居住者が二本松安達線を徒歩で南北に往来することが想定されるが、当該箇所は幅員が狭く歩道が設置されていないことから、人と車両の混在により大きな事故につながりかねず、特に朝と夕方は二本松市街地への通勤車両により交通量が増加し、居住制限者の入居が進んだ場合に二本松安達線の混雑や入居者の住宅への出入りも非常に危険になることも想定される。このため、二本松安達線の通行車両の円滑で安全な交通と入居者の安心・安全な歩行空間を確保するため、住宅の整備と併せて道路改良を行う。</p>					

※避難者支援事業等である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	
交付団体	
基幹事業との関連性	